

[11] ギニアビサウ

主要経済指標等 (2012年)

- 人口 166万人
- GNI 総額 8.21億ドル
- GNI 一人あたり 530ドル
- 経済成長率 -1.5%
- 失業率 7.5%
- 対外債務残高 2.79億ドル
- 援助受取総額 (支出純額) 0.79億ドル
- D A C 分類 後発開発途上国
- 世界銀行分類 i/低所得国

出典) WDI (世界銀行) 等。詳細は解説参照

表-1 我が国の対ギニアビサウ援助形態別実績 (年度別)

(単位: 億円)

年 度	円借款	無償資金協力	技術協力
2009 年度	-	13.91	0.72(0.70)
2010 年度	-	13.10	0.34(0.33)
2011 年度	-	10.64	1.32(1.32)
2012 年度	-	-	0.04(0.04)
2013 年度	-	3.50	-
累 計	-	159.69	8.53(8.44)

※脚注参照

ミレニアム開発目標 (MDGs) 代表的な指標

	過去データ	最新データ
●目標1: 1日1.25ドル未満で生活する人々の割合	41.3%(1991)	48.9%(2002)
●目標2: 初等教育における純就学率	50.4%(1999)	75.0%(2010)
●目標3: 初等教育における男子生徒に対する女子生徒の比率 (男子を1とした時の女子の人数)	0.55人(1992)	0.94人(2010)
●目標4: 5歳未満児の死亡数 (1,000人あたり)	206.0人(1990)	129.1人(2012)
●目標5: 妊産婦の死亡数 (出生児10万人あたり)	930人(1990)	790人(2010)
●目標6: 15~49歳のHIV感染率 (100人あたりの年間新規感染者数の推定値)	0.25%(2001)	0.31%(2011)
●目標7: 改良飲料水源を継続して利用できる人口の割合	35.8%(1990)	71.7%(2011)

出典) Millennium Development Indicators (The Official United Nations Site for the MDG Indicators)

ギニアビサウに対する我が国ODA概要

1. 概要

我が国は 1980 年度の対ギニアビサウ経済協力開始以来、技術協力および食糧増産援助、水産、水供給分野等の無償資金協力やノン・プロジェクト無償資金協力を実施してきた。他方、同国で 1990 年代に始まった民主化に向けた動きは、1998 年に内乱、2003 年にクーデター、2009 年 3 月にヴィエイラ大統領の暗殺が発生する中で、一進一退を続けており、2012 年 4 月に発生した一部国軍兵士による反乱を受け、我が国は当面の対応方針として、新規の二国間援助を差し控えるとともに、また、国際機関経由の支援については、人道的観点から必要なものおよび民主化プロセスに資するものに限り実施することとした。

その後、国際社会の働きかけもあり、2012 年 6 月には新大統領が就任、同年 7 月には新たな内閣が発足したことを受け、我が国は経済協力再開を決定し、可能な分野から経済協力を開始していく方針である。

2. 意義

ギニアビサウでは、相次ぐクーデターや内戦という不安定な内政が更なる貧困を招いている。いまだ基礎的生活分野で多大な問題を抱える、世界最貧国の一つである。こうした中、国家の安定と開発を目的としたギニアビサウの自助努力に向けた取組を我が国が支援することは、ODA大綱の重点課題である「貧困削減」と「平和の構築」に見合うものであり、MDGs達成に向けた取組の一環としても重要である。

3. 基本方針

ギニアビサウは、世界最貧国の一つであり、国民の基本的な生活分野への支援が喫緊の課題である。政府が策定した第二次貧困削減戦略文書 (フランス語「DENARP2」2011 年最終版) は①法の支配および行政機能の強化、②安定的かつ活発なマクロ経済状況の確保、③持続的かつ包括的な経済成長の促進、④人的資源開発の拡充の 4 点を軸に据えている。このようなギニアビサウの開発ニーズを踏まえ、先方政府との協議に基づき、貧困削減や人間の安全保障、平和構築に資する支援を行っていく方針である。

4. 重点分野

今後、先方政府との協議を通じ、重点分野を特定していく。なお、2013 年度は政情にかんがみ、新規案件は実施されていない。

※注) 1. 年度の区分および金額は原則、円借款および無償資金協力は交換公文ベース、技術協力は予算年度の経費実績ベースによる。

2. 2009年~2012年度の技術協力においては、日本全体の技術協力の実績であり、2013年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示している。()内はJICAが実施している技術協力の実績および累計となっている。

ギニアビサウ

表-2 我が国の年度別・形態別実績詳細（表-1の詳細）

(単位：億円)

年 度	円借款	無償資金協力	技術協力
2011年度	なし	10.64億円 ・ビサウ市小学校建設計画 (9.98) ・緊急無償（ギニアビサウ共和国における大統領選挙に対する緊急無償資金協力（UNDP連携）） (0.30) ・草の根・人間の安全保障無償(3件) (0.36)	
2012年度	なし	なし	
2013年度	なし	3.50億円 ・食糧援助(WFP連携)(2件) (3.50)	
2013年度 までの累計	なし	159.69億円	8.53億円 (8.44億円) 研修員受入 152人 専門家派遣 4人

注) 1. 表-1 注釈同様

2. 技術協力においては、2011年度以降に開始され2013年4月の時点で継続中の技術協力プロジェクト案件のみを掲載している。案件の〔〕内は、協力期間。

表-3 我が国の対ギニアビサウ援助形態別実績 (OECD/DAC 報告基準)

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	有償資金協力	無償資金協力	技術協力	合計
2009年	-	8.69 (4.21)	0.74	9.43
2010年	-	15.87 (12.71)	0.24	16.11
2011年	-	8.71 (0.50)	1.07	9.78
2012年	-	5.71 (1.77)	0.91	6.62
2013年	-	5.64 (2.15)	0.01	5.65
累計	-	120.10 (27.30)	8.40	128.50

出典) OECD/DAC

- 注) 1. 国際機関を通じた贈与については、2006年より、拠出時に供与先の国が明確であるものについては各被援助国への援助として「無償資金協力」へ計上することとしている。また、OECD/DAC事務局の指摘に基づき、2011年には無償資金協力を計上する国際機関を通じた贈与の範囲を拡大した。()内は、国際機関を通じた贈与の実績(内数)。
2. 有償資金協力および無償資金協力は、これまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額(有償資金協力については、ギニアビサウ側の返済金額を差し引いた金額)。
3. 有償資金協力の累計は、為替レートの変動によりマイナスになることがある。
4. 技術協力は、JICAによるもののほか、関係省庁および地方自治体による技術協力を含む。

表-4 諸外国の対ギニアビサウ経済協力実績

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2008年	ポルトガル 17.84	スペイン 16.35	日本 5.83	フランス 5.58	イタリア 2.24	5.83	53.24
2009年	ポルトガル 14.43	スペイン 13.05	日本 9.43	フランス 6.10	イタリア 2.22	9.43	51.63
2010年	日本 16.11	ポルトガル 15.72	スペイン 8.29	米国 6.52	フランス 1.84	16.11	54.31
2011年	フランス 14.39	ポルトガル 13.67	日本 9.78	スペイン 6.35	米国 1.73	9.78	52.34
2012年	米国 11.94	ポルトガル 9.51	日本 6.62	スペイン 4.15	フランス 1.35	6.62	37.18

出典) OECD/DAC

表-5 国際機関の対ギニアビサウ経済協力実績

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2008年	EU Institutions 48.37	IDA 24.42	AfDF 6.48	UNDP 3.23	UNICEF 2.16 UNPBF 2.16	7.58	94.40
2009年	EU Institutions 60.12	IDA 22.02	AfDF 13.45	GFATM 6.85	UNDP 3.84	7.63	113.91
2010年	AfDF 145.53	IMF-CTF 29.28	GFATM 16.58	EU Institutions 16.57	IDA 16.21	10.77	234.94
2011年	IDA 243.53	EU Institutions 20.58	AfDF 10.09	IMF-CTF 7.62	GFATM 7.16	17.28	306.26
2012年	EU Institutions 14.74	IDA 11.53	UNDP 3.31	GFATM 2.45	AfDF 2.43	9.89	44.35

出典) OECD/DAC

注) 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

主なプロジェクト所在図 ギニアビサウ、ギニア、コートジボワール、シエラレオネ、ブルキナファソ、リベリア

